

試合で正しいサービスを出すために

～ ルールにあったサービスを出せていますか？ ～

公益財団法人 日本卓球協会
 ルール・審判委員会 編

近年、小学生や中学生などの大会で、サービスの乱れが指摘されています。注意を受けても正しいサービスが出せない選手がいるとの指摘もあります。

選手の皆さんの努力はもちろん、指導者の皆さんの協力も欠かせないと考え、サービスルールの要点をまとめ、お知らせします。

正しいサービスを身につけるためには、日頃の練習が欠かせません。この文書を参考にして、ルールにあった正しいサービスが出せるように練習して、地域の大会や全国大会に参加しましょう。

次に書いてあるサービスはルールにあっていません（違反サービスです）



サービスを始める時

- しっかり動作が止まっていない
- ボールをのせている手のひらが開いていない
- ボールが手のひらではなく、指にのっている
- ボールの位置がエンドラインの内側にある
 (ボールをのせた手や腕はエンドラインの内側に入ってもよいが、ボールは入ってはいけない)
- ボールの位置がプレーイングサーフェス(卓球台の表面)の下にある
 (投げ上げる時の反動で、プレーイングサーフェスから、ボールが下がってもいけない)



ボールを投げ上げてから打球する時まで

- ボールを、ほぼ垂直方向に投げ上げられなかった
- 手のひらや指でボールに回転をかけた
- ボールが手のひらから離れたあと、16 cm 以上上がっていない
 (審判員はネットの高さ(15.25 cm)を基準に判定します。ネットの高さ以上に投げ上げること)

- 打球までに何かほかのものに^{なに}触れてしまった
(天井の照明、競技者の^{てんじょう}体やユニフォームなどに触れた場合)^{しょうめい} ^{きょうぎしゃ} ^{からだ} ^{ばあい}
 - ボールが上がっていく途中に打球した (ぶっつけサービス)^{とちゅう}
 - ラバーを貼っていない面^はで打球した^{めん}
 - ボールをサーバーの体^{かく}で隠した
 - ボールをダブルspartnerで隠した
 - ボールを投げ上げたあと、手や腕^{うで}をすぐに「ボールとネットとの^{あいだ}間の空間^{くわかん}」から外^{そと}に出さなかった
 - エンドラインの内側(台の上)で打球した
 - プレーイングサーフェスより下で打球した
- ※サービスが正しいかどうか^{うたが}疑わしいと審判員が判断^{はんだん}した場合、その試合で最初^{しあい}の疑問^{さいしよ}であれば「レット」とコールされ注意^{ちゅうい}が与^{あた}えられる。明らか^{あき}な違反サービスは、レットではなく、最初から「フォールト」となり、相手^{あいて}のポイントになります。



サービスを打球した(出した)あと

- サーバー側のコートに触れなかった
- サーバー側のコートに触れたあと、レシーバー側のコートに触れなかった
- ダブルスで、サーバーのコート^{ひだりはんぶん}の左半分にボールが触れた
- ダブルスで、サーバーのコート^{みぎ}の右半分にボールが触れたあと、レシーバーのコートの左半分に触れた

ルールにあった、正しいサービスができるように練習しましょう！

以上